会報
国鉄闘争全国運動
国鉄分割・民営化反対！１０４７名解雇撤回！
76号
2016年9月16日

国鉄分割・民営化に反対し　１０４７名解雇撤回闘争を支援する全国運動事務局
千葉市中央区要町２－８ＤＣ会館内
TEL ０４３－２２２－７２０７
nationwidemovement@yahoo.co.jp

11・6日比谷結集を

集会成功へ賛同・国鉄署名の推進を

民主労総ソウル地域本部と３労組で11月国際共同行動

１１・６全国労働者集会に向かって国鉄闘争全国運動の呼びかけ人会議を８月、都内で開催しました。民主労総ソウル地域本部の呼びかけに応え、国鉄闘争を軸に職場からの闘いをつくることなどが議論されました。呼びかけ人の発言要旨を紹介します。（文責・事務局）

解雇撤回・ＪＲ採用を求めるＪＲ東宛署名 1万657筆（16年9月16日現在）

国鉄闘争を労働運動の軸に

葉山岳夫

労働法制改悪は、新自由主義の本来の攻撃だ。国鉄闘争は、これに対決する闘いの軸になりうる。国鉄分割・民営化は、中曽根・レーガン・サッチャーによる世界的な新自由主義の根底的な攻撃だった。

ＪＲ東日本会社が、不採用基準の策定を不当労働行為と認定した昨年６月の最高裁決定について「裁判の当事者ではないので回答する立場にない」との逃げ口上を言っている。

しかし、国鉄分割・民営化を強行した張本人である井手元ＪＲ西日本会長を囲む座談会の議事録によれば、井手と葛西敬之（ＪＲ東海会長）が斉藤英四郎・ＪＲ設立委員長と会って不採用基準の作成を協議している。それが２０００年９月の懇談会議事録としてまとまっている。

これは国鉄１０４７名解雇撤回闘争の大きな武器だ。解雇撤回と採用を求める署名運動など大衆運動として展開していく。動労千葉はＪＲに団体交渉を求めているが、労働委員会や裁判だけでなく労働運動の大きな一環として位置づけて展開していくことが重要だ。

労働法制を変える攻撃は、中曽根以来のパターンとして懇談会や諮問会議をデッチあげその結論をトップダウンで下ろしていく。労働運動がこれとどう対決するか。労働法学者もそうとうな危機感をもって警告を発している。

韓国・民主労総との連帯も非常に重要だ。国鉄１０４７名解雇撤回闘争を改憲・戦争・労働法制改悪との闘いなど全体を牽引する運動として展開したい。

全国から大法廷に結集を

鈴木達夫

参院選ではお世話になりました。ささやかながら「新しい労働者の党をつくろう」の基盤が作れたと考えています。街頭で訴えていると、労働者とか労働組合という言葉が別世界の話になり始めている。これは危機だと思いました。「労働組合」「労働者」「労働者の革命」という言葉と概念の復活を、消費税や非正規など具体的なテーマを通じて訴えた。

今回の特徴は、非正規の青年だけでなく、40～50歳台が必死に聞いてくれた。それは「新しい思想、新しい価値観だ」と。労働者の闘いこそが社会を変えるという訴えを初めて聞いたという。職場の攻防を必死に闘わないと天上の言葉になる。そういう意味では11月労働者集会に向かってもそこはリアルに見据えなくてはならない。

ＪＲ総連の田城郁が落選した。労働者は、口先だけでまともに闘わない連中を相手にしない。そんな余裕もない。明日食べるために必死になっている。何が組合なんだと。それがＪＲ東労組の中にも満ちていた。

新宿にあるＪＲ東の本社にも行き、「ＪＲは日本一の極悪企業だ。分割・民営化で２００人の自殺者を出し、20万人の首を切ったＪＲを許せるか」と訴えた。「今も国鉄闘争を闘っているのですか」という声がドンドン寄せられた。国鉄闘争を今も闘っている。それが現在の問題のカギなんだと思いました。

外注化をめぐる強制出向無効確認訴訟で１００人の大法廷をとりました。動労総連合の原告59人で約２年半、闘ってきた大訴訟です。われわれの土俵に引き釣りこんだ。証拠・証人調べをどのレベルでやるかは徹底的に大事です。ＪＲ東の代理人は証人を１人しか出さなかった。そして組合側証人は全員必要ないと主張した。

今までの訴訟はそうだった。裁判所も証人はいらない、主張の正否を法律的に判断すればよいという態度。

今度はこっちも構えた。この問題はやはり偽装請負、強制出向先が偽装請負かどうかは大きな争点です。裁判所も偽装請負は重要なテーマだと認めてし

（裏面へ続く）

動労千葉 指名ストに突入

過酷な労働条件、就業規則改悪を打ち破れ

動労千葉は、千葉運輸区工臨488行路（9月13・16・27・29日）を対象にした指名ストに突入しました。

工事列車で使用するＤＬ（ディーゼル機関車）は冷房もなく真夏の運転台は50℃近く。しかし会社は「冷房設置の計画はない」と回答。動労千葉は、負担軽減のために行路の2分割を提案しました。これも会社は拒否しました。

本線運転士の乗務する行路は限度を超えています。前日からの泊勤務で翌朝も昼13時近くまで乗務することもあります。実質4時間の睡眠時間の確保も困難な状況です。マスコミも続発するオーバーランの原因として乗務員の疲労を指摘しています。

過酷な労働条件により泊勤務中に脳梗塞で倒れた組合員など、心臓・脳疾患で乗務を降りた組合員も複数います。「夏場は暑くてたまらない」「会社は俺たちをなめている」「これ以上、犠牲者を出させない」との声が上がっています。今回は、組合員の怒りを代表する指名ストです。

就業規則改悪阻止

ＪＲ千葉鉄道サービス（ＣＴＳ）の各事業所では、就業規則改悪についての職場説明会が始まりました。

提案された修正案は、法律では無条件で無期雇用となる勤務5年を前にして面接で選別するものです。しかもその賃金は千葉県の最低賃金ギリギリ、定期昇給もない時給制です。

ＣＴＳは団体交渉で、30円の賃上げは12年分の賃上げ前払いと説明しています。しかし、うち25円分は10月1日から最低賃金のアップに伴うもので、まったく当然のことです。

前夜12日のストライキ総決起集会でＣＴＳ組合員は「食べたい物も食べられず、やりたいこともできず、欲しい物もガマンして働いている仲間たちの職場です。契約社員も待遇がさらに低下し、退職する人が続出するような状況です。正社員も例外ではありません。去るも地獄、残るも地獄です。職場から声をもっとあげて会社を動かしたい」と訴えました。

世界的な階級闘争の時代

鎌倉孝夫

情勢問題んついて提起したいと思います。

一つは、アベノミクスの完全破綻。破綻に意味があるわけではなく、その本質は何であるかを明確にとらえなければならない。新自由主義の本質を明確にとらえる必要がある。

ゼロ金利がマイナスになっても需要拡大にはつながらない。これも完璧な破綻です。株価も上がらない。外国投資家はほとんど逃げた。円安も終わり。

では安倍の政策の本質は何か。多国籍企業化した一握りの金融独占体の利益をあらゆる政策として集中的に展開している。そこに新自由主義の本質がある。

第一に、安倍政治だけでなく新自由主義を動かす基本は何か。それぞれの国の多国籍企業化した金融資本です。そうすると安倍の方向性が非常に明確になる。一つは軍需産業、経済の軍事化です。技術開発も国家資金を使いながら軍事開発。米国だけでなく全世界的にそうなっている。原発で失敗した。

第二に、労働力の問題。労働規制緩和も世界的な動きです。世界的規模で資本対労働の階級対立・階級闘争が起きている。

労働者人民を国家の枠の中に取り込んでいかなければならない。一億総活躍社会は、新しい国家総動員の施策ではないか。同一労働同一賃金や最低賃金のアップなど、体制の中で改良主義的に取り込む政策として、実態は勝手に解釈しながらやっている。だけど取り込まれない者に対しては弾圧・排除・統制。

戦争の危機を煽ることが労働者人民を統合する方策になりつつある。これが三番目の問題です。中国の脅威論、朝鮮戦争の危機、アメリカがデッチあげ、日本が最も積極的。

１９３０年代を思い出させる事態が進んでいる。今日の情勢との違いは、30年代は国家が体制統合の主役だった。個々の金融資本は経済も立て直せず、労働者を結集することもできなかった。だからナチスや日本の軍部がやった。国家が体制危機克服の主役を演じた。

今は新自由主義の主役＝金融資本が国家を食い物にしている。国益なんか考えない多国籍化した金融資本が国家体制から金融から政策をぜんぶ食い物にしている。これが現代の基本的な特徴じゃないか。

もう一つ、新自由主義の特徴は、規制緩和や自由化で競争を煽りながら、しかし、思想・行動は管理する。戦争体制を築く。それをとらえる必要がある。米国や欧州でも右翼が台頭しています。トランプが一国主義的な排外主義を主張していますが、実際は実行できない。EU離脱したイギリスも先がない。排外主義を煽りながら労働者の不満を吸収する。

そこから捉えなければならない問題は何か。やっぱり30年代は、資本主義国家、資本主義国連合の戦争になった。今は、新たな規模での中国と朝鮮と帝国主義の戦争危機です。

問題は、帝国主義と新自由主義の全世界的な限界に戻ってくる。全世界的な資本と賃労働の階級闘争が進展している。マルクスが言った〈万国のプロレタリア、団結せよ〉の情勢が成熟しているのではないか。経済理論的にいうと革命・戦争・恐慌の必然性。全世界規模での労働運動の連帯と団結が新自由主義をうちやぶる基盤です。

そう考えると本当に戦争の危機が進行している。アメリカも慌てているというとらえ方をした方がいいんではないかと思っています。

その底辺にあるのが、新自由主義の行き過ぎた政策の提起の中で起きている社会的矛盾を抑えきれなくなってきている。これがいまの現状だと思います。

国際連帯、「万国の労働者、団結せよ」という時をあらためて迎えているんじゃないかと思います。それに日本の労働者がどう応えていったらいいかが問われている。

ここのところが〈言うは易し、行うは難し〉で悩みが大きいんですけれども。でも、一つひとつ詰めていく努力が求められているのが現実かなと思っています。

小さなところでは、労働組合が労働組合としての機能を失っている。これの復活が必要であるということになるんだけれども、今の状況のなかでは、〈一発構えて事が成る〉という状況にないから、地道に積み上げていく以外にない。これは汗もかくし、足も棒にするしという以外にないのかなと思っています。

日本の労働者が応えるとき

花輪不二男

天皇制を再度使って、国家主義的に弾圧機構を強化して、労働者を弾圧して戦争に向かう。それが今の安倍政権の戦略であると思います。

もう一つは、世界的にオバマが言っている「核なき世界」。オバマ自身も、そのブレーンの連中もNPTのようなごまかしでは核戦略を維持しきれなくなっている。

これは朝鮮という小さな国でも独自に核開発ができる状況に世界的な技術が拡散しているし、どこの国が核兵器をつくってもおかしくないような状況が続いている。

NPTの枠組みの中で、核保有国が現状を維持して、その他の国にはつくらせない構造が持たないところに来て、あらためてオバマが提起している気がする。RMTはあげてEU離脱だった。

全世界に民主労総と動労千葉が呼びかけていく。職場の闘いを展開しながら、もう少し普遍化していく。サード配備をはじめ朝鮮戦争への動きが出てきている。天皇メッセージも含めた支配の危機を再統合していく動きが出てきている。

そのカギは、新自由主義に対する反乱、職場からの闘いです。職場は政治の話題がタブーになっている。2010年の4・9政治和解は大きい。労働運動を闘わないと言った瞬間に、労働条件も政治の話もとんでもないとなった。戦争の問題をタブーにはできない。向こうも蹴破ってきている。われわれの構え方次第です。

『日刊動労千葉』の活用を

入江史郎

最近の『日刊動労千葉』が充実していて、その活用があるのかなと思います。ス労自主も場合によっては日刊をビラで使わせてもらって職場にまいています。そういうことを全国的に11月集会に向かってやれたらいいのかなと思っています。

われわれの職場で見ると、正規職と非正規の利害は一致どころか敵対関係になっている。

下請け、非正規に対して、われわれも製油所のビラ入れなどを続けていますが、そういうことを外連味なくやると同時に、正規職の側にもわれわれはまだ労組的な核はあって、安倍政権も連合を解体・再編して戦争に向かおうとしているわけだから、そこにキチンと立ち向かっていく。

何が通用する分からないけれどもそこはやらないといけないと思っている。

それから「同一労働同一賃金」の問題は、すぐれてイデオロギー攻撃です。これと対決するものを打ち出さなければならない。

「同一労働同一賃金」なんて実際には成り立たない。ここまで合理化が進めば、そもそも同一労働なんて存在しない。非常に観念的なものです。

これに対抗できるわれわれのイデオロギーを闘いの中から打ち出していくことではないか。

労働運動の歴史から学ぶ

伊藤晃

無数の職場に労働組合をつくり出す課題。職場にある問題を二人でも三人でもいいから話し始めることからしかやりようがないんだけれども、どうやったらいいのかについて、もう少し知恵を集めた方がいいかなと思っています。

入江さんから『日刊動労千葉』の活用の話が出ましたけれども、あるいは『月刊労働運動』の中に職場報告がありますね。これを使って読者会をしてはどうか。

職場の実例を実例として意識していないんじゃないか。自分のところと関係ないのか。いやある。実例として意識できないでいるんじゃないかという気がしているんです。

一般的に『日刊動労千葉』や『月刊労働運動』を読みましょうではなく、この記事について意見を寄せてくれないかという働き掛けができないか。

もう一つ。いま労働者にかけられている問題について、これまで労働者の常識が崩れてしまっている。

「同一労働同一賃金」も、1950年代後半から60年代初頭ぐらいまでかなり議論されたことです。この場合、前提になったのは最低賃金制の問題です。最低賃金制と同一労働同一賃金はセットだったんです。

もう一つは、平均賃金に対するベース賃金。企業の成果に応じて賃金を分配するという考え方です。平均賃金とは、労働者が〈俺はこれだけの仕事をやったのだからこれだけもらえるはず〉ということをまったく反映しない。そのことをどうするかで「同一労働同一賃金」が問題になった。

最低賃金の問題は生活給の問題で、これだけないと労働者は食えないという問題。〈これだけ俺は働いた。これに対してどうしてくれるのか〉という労働者として非常にまっとうな意見が「同一労働同一賃金」の問題としてあったと思います。

いまはその議論そのものがすっかり忘れ去られていて、安倍の方からポッと出されたものだから、これをどう扱うのかということになっている。

労働運動はこういう問題、賃金や非正規の問題に対して歴史的にどう考えてきたのかを思い出してみることが必要だと思います。こういうことが運動をつくっていく上で案外重要なのかも知れないと思います。

（表面からの続き）

まった。JR側の証人は現場のことを何も知らない人間。裁判所も、証人が出てきて分かりませんでは時間の無駄だからダメだとなった。こちらは8人の証人を採用させた。しかも大法廷にさせた。

国鉄分割・民営化反対の闘いから始まって、その後の動労千葉の闘いがあり、出向を拒否した59人の原告が現場に踏みとどまって闘っているうちに矛盾が出てきた。最大の問題は事故問題です。逃げ切れない。出向期間も3年だと言ってきたが延長した。それも大きな争点。

外注化、出向の問題は具体的にあらゆる職場で吹き荒れている攻撃です。転籍出向は個別の労働者の同意が絶対に必要ですが労働法制の改悪でこれを崩そうとしている。この種の攻撃が全戦線で吹き荒れている。全国各地の人が出向問題でぶつかっている。だから大法廷に傍聴に来て学んでほしい。役立つと思います。

最後に、11月をどう闘うか。新自由主義攻撃に対する真っ向からの全世界の労働者の闘い、これが集約点になる。

民主労総がなぜ動労千葉を選んだのか。デヴィッド・ハーヴェイの『新自由主義』という著作がある。ハーヴェイは新自由主義は労組つぶしだと言い切っている。この本に唯一ある労働組合の名前が民主労総です。民主労総は新自由主義に真っ向から対抗して闘っている。

英国のEU離脱問題も新自由主義に対する闘いです。EUとシティのもとにいる限り格差は拡大する。RMTはあげてEU離脱だった。

全世界に民主労総と動労千葉が呼びかけていく。職場の闘いを展開しながら、もう少し普遍化していく。サード配備をはじめ朝鮮戦争への動きが出てきている。天皇メッセージも含めた支配の危機を再統合していく動きが出てきている。

そのカギは、新自由主義に対